

次から次へと

浮かぶ

“夢”に

形を与えて

いくことが

何よりも

幸せである



# アフロディア

石正美術館 ミュージアムニュース  
SEKISHO ART MUSEUM  
MUSEUM NEWS  
Summer 2018

No. 137

# ◆ 石本正記念展示室 ◆ 2018年度「石本正作品選2」

## より

「石本正作品選」では、青年時代から晩年に至るまでの画業の全貌を、展示作品を年四回に分けて入れ替えながら紹介します。収蔵作品の中から選び抜かれた名作の数々を、ぜひ会場でご覧下さい。

### 【特集展示】

#### ヨーロッパ中世美術に重ねた夢

石本正が生涯、心に抱き続けた《ヨーロッパ中世美術》に対する憧れの心。これは、彼の芸術観を支える重要なテーマの一つです。

今回の作品選では、展示室の一角を使って、七十五年という長い画業のずっと憧れ続けていたヨーロッパ中世美術への思いや、それらがどのように彼の作品に影響を与えたのか、という事に注目して作品を紹介しています。

#### 新たな表現を求めて

画家・石本正の名前が世に出始めていた三十代はじめの頃、作風が急に大きく変わったことがあります。終戦からまもない当時、海外の文化の流入によって急激に社会環境が変化していく中、日本画界でも「新たな表現を」という意識を持って作品制作する画家も増えていました。彼も当時の心境を振り返り「こんなところでポヤポヤしてられないというあせりもあって、世の中に流されて、私

の絵はコロツとかわった」（初出「芸術新潮」一九七七年七月号）と語っています。

ただ彼は、安易に時代の流れに乗るのではなく、新たな表現のヒントを求めて日本や西洋の《古典》に目を向けました。特に画集で目にしたヨーロッパ中世の時代のフレスコ画に強く惹きつけられ、それらの表現に影響を受けた作品を描くようになりました。

「女」（一九五五昭和三十年）は、『死の勝利』（ピサ大聖堂付属墓所／イタリア）という壁画の一部にイメージを重ねて描いたというものです。

緑色の犬を片手に抱える女性。彼が参考にしたという『死の勝利』の一部に、左右は反転しているがよく似たポーズの女性と犬が描かれています。壁画の方では犬の毛色は白で女性もヌードではありませんが、犬の姿はよく似ていて、表現にかなり直接的な影響を受けていたことがうかがえます。

「対象を与えてくれる感動が絵を描かせてくれる」と生涯言い続けた彼の作品の中で、この時期だけは、作品づくりのためのヒントを画集の中に求めました。

このため「これは僕じゃない」と感じてしまい、数年続けたのちにぼつたりと止め、倉庫に収めたまま、何十年も表に出す

ことがありませんでした。しかし皮肉なもので、これらの作品は連続して新人賞を受賞し、石本正の名を押し上げるきっかけにもなりました。世間の評価の高さと、作品として割り切れない自分の気持ちとのギャップも、長年表に出さなかつた理由のひとつなのかもしれません。

その後の作品の表現には直接的な影響は見られなくなりましたが、中世美術への憧れの気持ちはますます強く別の形で表れていきます。

#### 本物の衝撃／深まる夢

四十四歳の時、憧れ続けたイタリアを初めて訪れる機会がやってきました。この旅で初めて目にした本物のフレスコ画は、画集などの印刷物とは全く異なる発色の美しさで、彼はその素晴らしさに衝撃を受けました。それらの質感・技法・表現すべてに日本画と通じるところがあると感じた彼は、これからの日本画の在り方を考えるうえで、『現代の日本画家が中世のフレスコ画を学ぶ』ことがとても重要だと感じました。それから何年にもわたって本物の中世美術に出合うための旅をくり返すようになり、それは六十九歳までの間に九回も続きました。良いと感じるものは何度見ても飽きることはなく、気に入った作品がある場所には何

度も訪れ感動を味わいました。

こうして本物を目にしてきた感動は、旅をしなくなつてからも何度も心によみがえり、様々な空想と合わさつてますます豊かな作品へとつながつてゆきました。特に女性像は、心情まで表わすような心理描写の深まりを感じさせます。

八十四歳の時の作品「悶え」について語った画家の言葉をご紹介します。

「シモーネ・マルティニの《受胎告知》（ウフィツィ美術館蔵）のマリアは、大天使ガブリエルから処女懐胎を告げられて、体をひねりながら横目づかいに天使を見る。恥じらいと欲とがせめぎあう内心の葛藤を、うまく表現していて、見ているあきない絵である。マリアの心理を表現するそのデフォルメの仕方が好きなのである。形としては異なるが、この心理描写は、私のテーマと相通じるところがあると思う。」

本展を通し、生涯の代表作とともに、長い年月をかけて深まつていく画家の思いを感じていただければ幸いです。



上：石本正「女」1955（昭和30）年  
下：『死の勝利』（ピサ大聖堂付属墓所／イタリア）部分



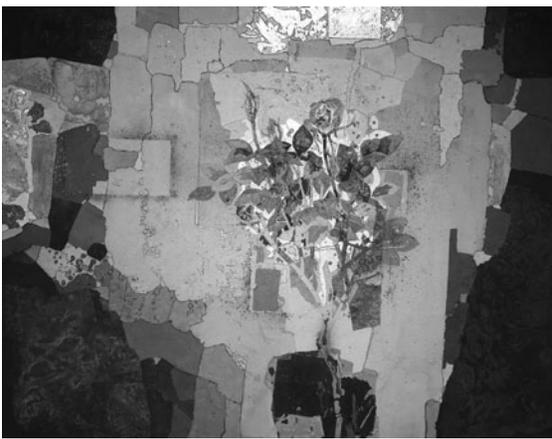
上：石本正「悶え」2002（平成14）年  
下：シモーネ・マルティニ「受胎告知」（ウフィツィ美術館蔵）部分



◆ 企画展示室 ◆

企画展 第8回  
石州和紙に描いた  
日本画  
2018年  
8月19日(日)まで

当地出身の日本画家・石本正（一九二〇～二〇一五）は、石州和紙を高く評価し、二〇〇一（平成十三）年の石正美術館開館以降のほとんどの作品をこの紙に描いていました。「石州和紙に描いた日本画展」は、彼が気に入っていた石州和紙の魅力が少しでも多くの方々に感じていただきたいという思いから生まれました。本展では毎回、石本画伯と御縁の深い画家や地元ゆかりの作家に、石州和紙を使っての作品制作を依頼しています。第八回目となる今回は、二十名の作家の新作が一堂に会します。石州和紙をどのように自身の表現に取り入れて制作するべ



雲丹亀利彦「刻のシンフォニー」  
石州特種判 131 二双（西田製紙所）使用



川崎麻央「あめのうずめ〜龍冠〜」  
石正紙一雙（石州和紙久保田）使用

きかという真摯な姿勢から生まれる作品は、とても生き生きとして瑞々しく、石州和紙を使用した新たな日本画の世界が広がりを続けることを予感させてくれます。この展覧会が、多くの方に石州和紙の魅力の一面を知っていただける機会になればと思っております。

《出品作家》

石本正

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 池庄司淳  | 落合浩子  | 田村紀美枝 |
| 池田知嘉子 | 梶岡百江  | 中村文子  |
| 上野富二郎 | 川崎麻央  | 西久松吉雄 |
| 内海福博  | 岸本裕子  | 福原康子  |
| 雲丹亀利彦 | 桑野むつ子 | 藤本直司  |
| 奥村美佳  | 庄田達生  | 吉川弘   |
|       | 多留裕二  | 吉村和起  |

(五十音順)

2018 若い石見の芸術祭

石本正  
日本画  
大賞展  
第4回

全国の美術大学の優秀作品が一堂に並ぶ最大規模の学生日本画展

2018 8月28日(火)～10月8日(祝)

開館時間：9:00～17:00 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日休館）

島根県 浜田市立石正美術館

審査員

(敬称略/50音順)

つちや れいいち なかの よしゆき にしひさまつ よしお ひらさか つねひろ  
土屋 禮一、中野 嘉之、西久松 吉雄、平坂 常弘

観覧料

《当日券》一般 700(600)円 高校・大学生 300(240)円 中学生以下 200(160)円

《前売券》一般 500円 ◆ローソン各店(Lコード 63193) ◆中国新聞社読者広報部、中国新聞各販売所(取り寄せ)

※「敬老の日」は、年内に65歳以上になる方の観覧無料(昭和28年12月31日以前に生まれた方)

…受付にて年齢確認できるもの(健康保険証、運転免許証等)をご提示ください。

※( )内は20名以上の団体料金です ※上記の料金を館内全ての展示をご覧いただけます

関連行事

◎オープニングセレモニー…8月28日(火) 9:30～

◎授賞式・合同批評会…9月16日(日)

お問合せ

浜田市立石正美術館(石本正 日本画大賞展 事務局)

〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場 589 番地 FAX.0855-32-4389 TEL.0855-32-4388

E-mail sekisho@mx.miracle.ne.jp HP <http://sekisho-art-museum.jp/>

若い石見の芸術祭HP

<http://www.artaaiiwami.com>

主催：芸術と文化のまちづくり事業実行委員会、浜田市立石正美術館、浜田市、浜田市教育委員会、公益財団法人浜田市教育文化振興事業団、中国新聞社  
後援：経済産業省中国経済産業局、国土交通省中国地方整備局、島根県、島根県教育委員会、公益財団法人しまね産業振興財団、山陰中央新報社、石見ケーブルビジョン、ひとまるビジョン

出品大学

- |           |              |
|-----------|--------------|
| 札幌大谷大学    | 京都造形芸術大学     |
| 東北芸術工科大学  | 嵯峨美術大学       |
| 金沢美術工芸大学  | 嵯峨美術短期大学     |
| 金沢学院大学    | 京都市立芸術大学     |
| 金城大学短期大学部 | 大阪芸術大学       |
| 筑波大学      | 大阪成蹊大学       |
| 文星芸術大学    | 奈良芸術短期大学     |
| 東京藝術大学    | 倉敷芸術科学大学     |
| 武蔵野美術大学   | 尾道市立大学       |
| 多摩美術大学    | 広島市立大学       |
| 女子美術大学    | 比治山大学短期大学部   |
| 常葉大学      | 九州産業大学       |
| 名古屋芸術大学   | 大分県立芸術文化短期大学 |
| 名古屋造形大学   | 崇城大学         |
| 成安造形大学    | 沖縄県立芸術大学     |
| 京都精華大学    |              |

31校(順不同)

イタリアの旅 ③ — ガイドリッチョ・ダ・フォリアーノ将軍騎馬像 —



シモーネ・マルティエーニ「ガイドリッチョ・ダ・フォリアーノ将軍騎馬像」

今回は、前号で触れたシエナの街で見えてきたものの続きです。

この街で見えたかっ たもう一つのは、シエナ市立美術館（プブリコ宮殿）の中 ありました。それは、十四世紀シエナ派を代表する画家、シモーネ・マルティエーニ（二二八四頃・一三三三）が描いたフレスコ画《ガイドリッチョ・ダ・フォリアーノ将軍騎馬像》です。

「濃紺の空にそびえる城を背景に、フィレンツェとの戦いから凱旋したシエナのガイドリッチョ将軍の勇姿。平面的な画面処理は、日本の障壁画を思わせ、色つやのないザラザラしたフレスコ画の材質感、まさに日本画

のそれだ。わたしは、異国にいたことを忘れて、この大フレスコ画に魅入られてしまった。」（石本正／京都新聞「名作とわたし」昭和四十五年二月二十七日）

石本先生が、青い空と白い雪山のコントラストが印象的な風景を描き始めたのは、このフレスコ画を見てからでした。先生に大きな感動とインスピレーションを与えた本物の絵がどんなものなのか、自分の目で見るのをとても楽しみにしてここを訪れました。

美術館といっても、もとは十三世紀から十四世紀頃に建てられた古い宮殿です。目標の絵がある場所まで長い階段を上り、やっとたどり着いたフロアはおそらく建物の最上階だったのだらうと思います。フロアは「世界地図の間」「九頭の間」「主の礼拝堂」をはじめとするいくつかの部屋に分かれていて、《ガイドリッチョ・ダ・フォリアーノ将軍騎馬像》はそのうちのひとつとも大きな「世界地図の間」にあるということだったので、まずはその部屋を目指しました。

しばらく歩くと、天井の高い大きなホールにできました。ここで目に入ってきたのは、入り口から向かって左の一 番大きな壁に描いてある《マエスタ（荘



シモーネ・マルティエーニ「マエスタ（荘嚴の聖母）」

嚴の聖母)》でした。この巨大なフレスコ画もシモーネ・マルティエーニが描いたもので、彼が三十代の若さで手掛けたといわれている作品です。石本先生はこの聖母子の上の天蓋の両端の布の表現が、四世紀ごろの中国の画家・顧愷之の「女史箴図」とよく似ていると言っており、東洋と西洋の中世美術の共通性を指摘した作品の一つです。登場人物の表情の繊細な表現や衣服の模様の細かな描き込みもさることながら、息をのむような背景の鮮やかな青色がとても印象的で、しばらく立ち止まって見入ってしまいました。そして移動しようとして振り返った時に目に飛び込んできたのが《ガイドリッチョ・ダ・フォリアーノ将軍騎馬像》でした。

そこで初めて、自分が今いる部屋が「世界地図の間」であるということに気

がつき、ハッとしました。目標の絵があればすぐに気がつくはずと思っていたので、気がつかなかった自分に対して驚いてしまいました。

というのが、その巨大な部屋の壁は窓側以外の四面全て、それぞれ複数の大きな絵で埋め尽くされていて、《ガイドリッチョ・ダ・フォリアーノ将軍騎馬像》はそのうちの1点として壁の一番高いところに描かれていたため、すぐに目に入ることになったのです。「えっ、こんなところに描かれているの?」というのが、私の最初の素直な感想でした。これまでに読んできた石本先生の文章で、あまりにも間近でこの作品を見たかのようにこの作品のことが語られていたため、絵の近くに寄って目線の高さでじっくりと見る事ができるものだと思いつかり思い込んでいたのです。

天井高の実寸は定かではありませんが、体感としては十メートルくらいあったのではないかと思います。その上部三分の二程の面積を占める位置にあるため、壁に近づいても真上を見上げるようになっても首が痛くなるだけでしたし、少し離れた場所から双眼鏡を使っても細かいところまではハッキリ

学芸員の部屋



一番上が「ガイドリッチョ・ダ・フォリアーノ将軍騎馬像」

り見えません。ましてや先生が語っておられるような「フレスコ画のザラザラした材質感」まで確認することはまず不可能でした。

先生にはなぜこの絵がまるで目の前に在るかのように見えていたのだろう…と考えながら、離れたところからこの絵とじっくり向かい合うことになりました。離れてみると、横長の画面を上下に分ける大地の白っぽい色彩と空の深い青とのコントラストがより一層はつきりと見えてきて、それがとても美しく感じられました。先生の別の文章にある「ぼくが雪景色を描くようになったのもこの作品を目にしてからだ。白と、えも言えぬ群青との対比の美しさはこの世のものとは思われない。この美しさをなんとかして日本画で描

いてみたいのだ。」という色の美しさに対する言葉は、きつとこの目線から見た時の感動から生じた言葉なのだろうと感じました。

では、画面の質感に関しては…？

先生の視力がよっぽど良かった…ということも考えられますが、眼鏡もかけていらつしやいましたし、きつとそうではなかったと思います。この作品を何年にもわたって何度も繰り返し見て、アトリエでその美しい思い出を反芻しているうちに作品と心の距離がぐつと近くなっている、実際に目に見えているもの以上のものを心の眼で見とおられたのではないだろうか、と、本物をじっくり見ているうちに思うようになってきました。これはあくまで私個人が思うことではあります。

ゆつくりと鑑賞した後、出口のところにあったミュージアムショップでポストカードでも買おうと見てみましたが、本物を見た後では特に空の濃紺の深い色合いが印刷で再現できているものが全くなく、これを買って日本に帰った時にみると、なんとなく心の中

の印象がくずれてしまいそうな気がしてしまつて、今回は思い出だけで我慢しようと思ひ購入は断念しました。

もう一度見てみたら、どんな風に自分の目に映るのかなあと、また何度でも訪れたくなつてしまいます。「良いと思うものは何度見ても飽きることはない」と言われた先生の言葉は、こういうことなのかもしれないと思ひながら、後ろ髪をひかれる思いでシエナ市立美術館を後にしました。

(学芸員 横山由美子)



石本正「春雪」1969（昭和44）年 ※現在「石本正作品選2」にて展示中



▲ iphoneのカメラで、「世界地図の間」をぐるりとパノラマ撮影してみた写真。左に見えている「ガイドリッチョ・ダ・フォリアーノ将軍騎馬像」と右の「マエスタ」は、向かい合った壁面です。真ん中の4つのアーチの上には、戦争の様子を描いたフレスコ画が描かれていました。「ガイドリッチョ〜」から戦争の壁画までの一連が横長につながって物語のようにも見える、なんとなく日本の絵巻物のようにも思えました。

7/28 土

おとなと子どものアートサロン  
「心いきいき！  
～すいかを描く～」

13時～15時

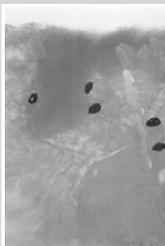
参加費：1人2,000円、親子ペア3,000円  
※小学2年生以下は親子での参加をおすすめします。(応相談)

講師：島根臨床美術の会  
定員：20名(要予約)

夏といえば「すいか」！見て、ふれて、におって、食べて、聞いて。五感で感じたイメージをそのまま絵の具で画用紙に表現してみませんか？実際にすいか割りも行います！完成した絵は、好きなどころで切り取ってハガキに仕立て、暑中見舞いとして出すこともできますよ。

すいか割りは外で行う予定ですので、帽子やタオルなど暑さ対策のできるものをお持ちください。

すいかわりもできるよ！



2018 石正美術館

アートな夏休み

こどもも大人も石正美術館で  
「アートな夏休み」を楽しもう！  
家族やおともだちとあそびにきてね！

ワークショップ

「海のクリスタル メダル」づくり

13時～16時 (約30分でつくれます。)

参加費：400円

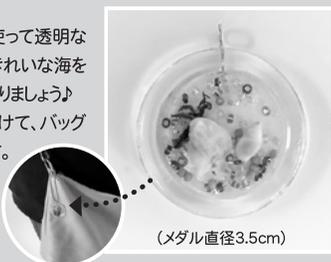
講師：モードエモード静

定員：先着30名(最終受付15時40分)

7/29 日

小さな貝がらや砂などを、レジンを使って透明なメダルの枠にコーティング。キラキラきれいな海をイメージして、自分だけのメダルを作りましょう♪作ったメダルはボールチェーンをつけて、バッグなどにつけられるチャームになります。

バッグなどにつけて  
たのしんでね！



(メダル直径3.5cm)

8/18 土

夏休みこども木工教室

13時～15時 参加費：500円

講師：西田清久さん(木工房きなり)

定員：10名(要予約)

- 木のおもちゃ ●木のおうち
- 木の本だな ●木のくるま など…

木でつくりたいものを  
じぶんで考えてきてね！

木にさわって、ながめて、自由な発想で自分の作品をつくってみよう。木肌を活かしたり、カラフルに色を塗ったり、アイデア次第で面白い作品ができるはず！夏休みの宿題にもバッチリです。

- ・小学校3年生までは保護者同伴でご参加ください。
- ・木工教室は外で行う予定です。帽子、タオル、飲み物など暑さ対策のできるもの、また工作用に軍手などをお持ちください。



創作教室

おとなのアートサロン  
「心いきいき！  
～きのこをつくろう～」

9.29 土 講師：島根臨床美術の会  
13時～15時

参加費 2,000円  
※要申込み(定員20名)

秋の味覚、きのこ。ねんどと絵具で、自分だけのオリジナルのきのこを作ってみませんか？色や形も自由自在。お部屋に飾って季節を感じてくださいね！



ギャラリー展示

はさみで作る幽玄の世界  
寺戸 眞貴子の切り絵展

9時～17時  
月曜休館

入場  
無料

7.21 土 → 8.5 日

益田市在住の寺戸眞貴子さんによる切り絵の作品展。はさみ一挺から切り出される緻密で美しい切り絵の世界を、ぜひご覧下さい。



ギャラリー展示

第17回(一社)二科会写真部  
島根支部写真展(石見移動展)

9時～17時  
月曜休館

入場  
無料

最終日8.16は15時まで

8.11 土 → 8.16 木

二科会写真部島根支部会員の皆様による写真展です。それぞれの視点で切り取られた一瞬の景色を、ぜひ会場でご覧下さい。



尾崎 剛

# SCHEDULE 石正美術館スケジュール

石本正 記念展示室	企画展示室	ギャラリー	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
2018年度 石本正作品選2  7.3 火 ↓ 10.8 祝	第8回 石州和紙に描いた 日本画展  7.3 火 ↓ 8.19 日	<p><b>ギャラリー利用について</b></p> <p>石正美術館では作品展示の会場としてギャラリーの貸出をしています。グループや個人の作品発表の場として多くの方に利用をいただいています。</p> <p>詳しくは石正美術館までお問い合わせください。</p> <p><b>利用料：1日 2,160円（税込み）</b></p> <p>※利用料金は電気代・什器利用代など含む ※当館の展示スケジュールにより日数などの変更をお願いする場合があります</p>	<p>おとなと子どものアートサロン <b>「心いきいき！～すいかを描く～」</b></p> <p>7.28 土 13時～15時</p> <p>講師：島根臨床美術の会 参加費：1人 2,000円 親子ペア 3,000円</p> <p>※小学2年生までは親子での参加をおすすめします。 定員：20名 持ち物：帽子、タオルなど暑さ対策のできるもの</p> <p style="text-align: right;">参加費 要申込み</p>
		<p>7.21 土 ↓ 8.5 日</p> <p><b>はさみで作る幽玄の世界 寺戸 真貴子の切り絵展</b></p> <p>【入場無料】</p>	<p>7.29 日 13時～16時 ※制作所要時間 約30分</p> <p><b>ワークショップ 「海のクリスタルメダル」づくり</b></p> <p>講師：モードエモード静 参加費：400円 定員：先着30名（最終受付15時40分）</p> <p style="text-align: right;">参加費</p>
		<p>8.11 土 ↓ 8.16 木</p> <p>一般社団法人 <b>二科会写真部 島根支部写真展</b></p> <p>石見移動展 【入場無料】 最終日8.16は15時まで</p>	<p>8.18 土 13時～15時</p> <p><b>「夏休みこども木工教室」</b></p> <p>講師：西田清久さん（木工好きなり） 参加費：500円 定員：10名 ※小学3年生までは保護者同伴でご参加ください。 持ち物：帽子、タオル、飲み物など暑さ対策のできるもの、 工作用の軍手など</p> <p style="text-align: right;">参加費 要申込み</p>
8.20月 → 8.27月 展示替休館 <span style="float: right;">CLOSED</span>			
2018年度 石本正作品選2  7.3 火 ↓ 10.8 祝	<p style="text-align: center;">2018 碧い石見の芸術祭</p> <p style="text-align: center;">第4回</p> <p style="text-align: center;"><b>石本正 日本画 大賞展</b></p> <p style="text-align: center;">全国美術系大学の優秀作品が一堂に並ぶ 最大規模の学生日本画展</p> <p style="text-align: center;">8.28 火 ↓ 10.8 祝</p>	<p>9.17 月・祝 敬老の日</p> <p style="text-align: center;"><b>65歳以上 観覧 無料</b></p> <p style="text-align: center;">通常 700円の 観覧料を無料に！</p> <p style="text-align: center;">「石本正作品選2」 「第4回 石本正 日本画大賞展」</p> <p>※年内に65歳になられる方（昭和28年12月31日以前に生まれた方）も含まれます。 年齢確認できるもの（運転免許証や健康保険証など）をご持参ください。</p>	
		<p>おとなのアートサロン <b>「心いきいき！ ～きのこをつくらう～」</b></p> <p>9.29 土 13時～15時</p> <p>講師：島根臨床美術の会 参加費：2,000円 定員：20名</p> <p style="text-align: right;">参加費 要申込み</p>	

7

8

9

10

7

SEKISHO ART MUSEUM

利用ごあんない

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日

(月曜日が祝日の場合開館・翌日休館)

展示替え期間

(平成30年8月20日(月)~8月27日(月))  
(平成30年10月9日(火)~10月15日(月))

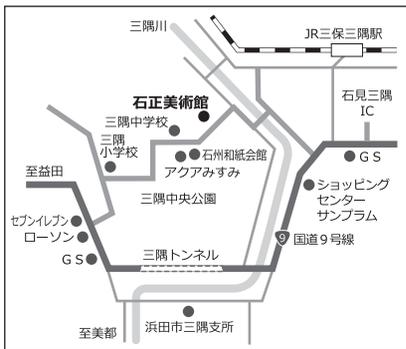
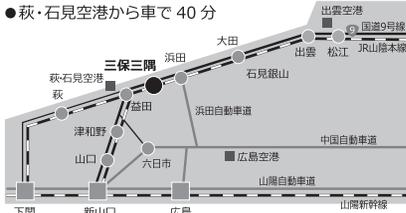
観覧料 展覧会によって異なります。

展覧会情報ページにてご確認ください。

※20名以上は団体料金。  
※身体障がい者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方は半額。介助者は無料です。  
※「しなな家庭の日」毎月第3日曜日は「しなな家庭の日」(家族連れの高校生・中学生・小学生は無料)。

石正美術館へのアクセス

- 最寄駅 三保三隅駅から車で5分
- JR山陰本線 浜田駅から三保三隅駅まで列車で20分
- 広島駅から浜田駅まで高速バスで2時間
- 浜田自動車道 浜田ICから車で20分
- 山陰道 石見三隅ICから車で3分
- 秋・石見空港から車で40分



石正美術館 ミュージアムニュース アフロディア

No.137

Summer 2018

平成30(2018)年7月20日発行

編集・発行 浜田市立石正美術館

〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場 589

TEL 0855-32-4388 FAX 0855-32-4389

Eメール sekisho@mx.miracle.ne.jp

http://www.sekisho-art-museum.jp/

石正美術館 検索

「浜田市立石正美術館」で検索



石正アフロディア サポーター通信



活動報告

美化活動

「ユキヤナギの剪定」「フラワーポットの植替え」

4月24日(火)と5月22日(火)に、くにびき学園園芸科21期卒業生の皆さんとご一緒に美化活動を行いました。

4月24日はあいにくの雨模様。予定していた「ユキヤナギの剪定」は次回に延期し、回廊内で「フラワーポットの植替え」のみを行うことになりました。色とりどりの苗をご用意いただき、まずは土の入れ替えからスタート。なかなか大変な作業になるかと思いましたが、くにびき学園の皆さんは慣れた様子でモノの1時間ほどで植替え作業を終えることができました。



また5月22日は、うって変わって晴天に恵まれ、延期していた「ユキヤナギの剪定」は、総勢16名の参加があり、初夏を迎えるのに気持ちのいいお庭となりました。

くにびき学園園芸科卒業生の皆さん、サポーターの方々ご協力いただき、本当にありがとうございました。



石正美術館 サポーター募集

活動を「楽しんで」いただける方、お待ちしております。

ポスター・チラシ発送

「ラベル貼り」「封入」など簡単な作業です。作業の候補日をメール等でお伝えします。

美化活動

「草取り」から「植栽」まで幅広く行います。園芸経験豊富な方からアドバイスをもらったり、作業を通して園芸の知識を深めることができます。

作業のあとは、皆でお茶菓子タイム。きれいになった庭を見ながら自然と会話も弾みます♪

展示室・ギャラリー 展示替え



色々な人と知り合えなれた！  
活動を通して心が豊かになる

できることを

できるときに お貸しください！

ご報告

当館では、浜田を中心に骨髄バンク普及のため活動している「らいらっくの会」の募金箱をインフォメーションコーナーに設置しています。この度、皆様よりお預かりした募金を「らいらっくの会」にお届けいたしました。ご協力いただいた皆様には心より御礼申し上げます。

募金総額 4,617円

引き続き募金箱を設置しています。